様式第１号（第３条関係）

【公　開　用】

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要

会　議　名	令和元年度　第４回　【足立区地域自立支援協議会こども部会】
事　務　局	福祉部　障がい福祉センター
開催年月日	令和元年１２月 20 日（木）
開 催 時 間	午後２時００分　～　午後４時００分
開 催 場 所	障がい福祉センター　研修室３
出　席　者	別紙のとおり
欠　席　者	別紙のとおり
会 議 次 第	次第 １開会 障がい福祉センター所長挨拶 ２　議事 （１）部会長挨拶 （２）今年度の成果とまとめ （３）その他 ３事務連絡 （１）第４回こども部会会議録は後日送付いたします。 （２）その他
資　　料	令和元年度足立区地域自立支援協議会第４回こども部会次第及び席次 令和元年度足立区地域自立支援協議会第３回こども部会報告書 足立区立自立支援協議会こども部会資料（うめだ・あけぼの学園）
そ　の　他	

様式第２号（第３条関係）
（協議経過）
１　開会
【事務局】（幼児療育係長）
　こんにちは、本日は年末のお忙しいところご足労頂きありがとうございます。本日も司会を務めさせて頂きます障がい福祉センターの勝田です。よろしくお願い致します。
　―資料確認―
　議事録作成のため、録音、記録しております。ご了承ください。
　第４回こども部会を開始致します。今回は、本会議が２月３日にありますので、それに向けてのまとめとなります。

　―所長挨拶―
　本日障がい福祉センター所長の江連ですが、所用で欠席させていただいております。大変申し訳ございません。代わりに幼児療育支援担当係長の浅輪が代理で挨拶をさせていただきます。

【事務局】（幼児療育支援担当係長）
　皆様こんにちは。公務ご多用の中、また年末のお忙しい中、第４回こども部会にご出席頂きましてありがとうございます。今、勝田が申し上げました通り、所長の江連が急用により欠席しておりますので、代わりまして一言ご挨拶させていただきます。この自立支援協議会こども部会につきまして、昨年度から新しい体制で２年間協議をしてまいりました。1年目に協議したものを今年度は引き継ぎまして、本日まで今年度は４回の部会をさせていただきました。特に前回は連携の事例をということで、あやせ保育園とうめだあけぼの学園からお出し頂き、連携対応の再確認の場となったと思います。本日は今年度最後の場となりますので、これまでの成果について活発なご議論をいただき、報告をまとめたいと思います。短い時間ではありますが、どうぞよろしくお願いします。

【事務局】（幼児療育係長）
　では議事に参ります。議事の進行は加藤部会長、よろしくお願いします。

２　議事
【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
　皆さんこんにちは。今浅輪係長からお話がありましたように、今回は第４回、任期としては２年目、場合によっては今回が最終の集まりになろうかと思います。いろいろな意味でこの２年間、公私にご多忙のところ、こうしてお集まり頂いてですね、地域のこどもたちの育ち、関係者のことなどについて、いろいろな視点から、ご意見をいただきまして、ありがとうございました。みんなでいろいろな意味で地域がもっともっとこどもが育ちやすい地域になればということで検討を重ね、2年を経たわけです。今回最終回、2年間で9回、多いのか少ないのかは議論がわかれるところです。これまでの経緯について申し上げますと、一昨年度までの部会は、障がいについて、年2，3回の実施でした。これでは話が煮詰まっていかないということで、もう少し回数を増やそうと、それとこどもの関係者、この地域の関係者がもっと集まって、それぞれの守備範囲について意見を積極的に出し、関係者に共有し、子育ての議論の場になればという

ことでスタートしました。そういうなかで、かなり意気込み、今までの在り方は意味がないと大幅に改革してスタートしました。しかし、そう簡単には改革ができない、というところです。悔いが残りますが、少なくともこの 2 年間皆さんには積極的にご協力、ご参加いただき、この場では様々なことが共有できたと思います。皆さんの献身的な行為に敬意を表しますし、今後拡大充実がはかられますよう、思います。

今日は 2 年間のまとめとなります。これまでどのようなことをやってきたかメモを用意しました。これはこちらの方で作って頂いた資料です。昨年 1 年間で議論した話題を 7 つのカテゴリにまとめまして、委員の皆様がどの立場にどんな思いをもっておられたのか、一覧をマトリックスにしたものです。ご覧頂いている資料 1 と書かれた方を表としますと、我々が共有したテーマは 1 つ目が保護者、家族支援、2 番目に障がい理解・支援、3 番目に相談窓口、4 番目機関連携、5 番目としましては体制・スキルアップ、6 番目に今年秋からクローズアップした防災の問題、先般の水の問題、この地域でもいろいろ課題が出たところですが、私たちは昨年から話題にしておりました。最後の 7 番目に不登校対応、この大きな 7 つのテーマが共通する、地域のこどもたちの課題として、このようなことがテーマになりうると思っているものを皆さんからご意見頂いたものを事務局の方でまとめて頂いたものがこの一覧だと思います。本当はこれを 1 つずつ検討しながら、現状を踏まえながら具体的にどうしていくのか、行政が今どんな対応をしているのか、我々民間、事業団体は何ができているのか、どんな課題が残っているのか、何が宿題として残っているかなどを 1 つずつ洗い出していきながら、我々のできるところから、気づいたところから何かしらのアクションを起こそうとした経緯があるんですが、私の議論の展開のまずさもあり、十分できずに今回を迎えてしまったことは、申し訳なく思っています。この 7 つのテーマはどれ 1 つ解決しているものではありませんし、場合によってはこれ以上にもっと大きな課題になっていく可能性が十分ありますし、その中でも今後優先順位をつけて、一刻も早くアクションを起こしていく必要があろうかと思いますが、任期中の 2 年間、こども関係者が一同に集まり議論した中で、共有できた成果として確認したいと思います。

今日は最後で、締め括りと言いますか、総括、反省として、前回の第 3 回の連携の具体的なケースカンファレンス、スタディをしたわけですが、これについてもまだまだ不十分だと思います。それぞれの課題や守備範囲の中で、連携の実態について、提出していただいた中で、それらの 1 つ 1 つが十分審議・協議は出来ていませんので、決して十分ではないんですけれども、そこまでたどりついたなかで、2 年間の活動の中でのそれぞれの立場からのご意見、次に向かう取り組むべき課題、方向性について、皆さんからご意見を出していただきたいと思います。忌憚のないご意見を、反省をこめて、振り返っていただけたらと思います。

あともう一つ、そこで出てくることかと思いますが、次新しい 2 年が始まると思うんですけれども、これについても修正は多々あると思いますが、今後取り組んでいく、2 年間取り組んでみて、コミットしてみ

て、優先順位を高めて、今我々関係者としてですね、看過できない課題であるものをぜひあげて頂きたいと、我々の“遺言”ではないですが、残しておきたいと思います。

まず皆さんからの感想、この 2 年間を振り返っていただいての意見、プラスマイナスあると思いますが、ぜひ共有したいと思います。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）

今年 1 年色々とお話聞かせて頂きありがとうございました。私達親の会としては、孤立している保護者、情報を知らない保護者に情報を発信していく、若いお母さん達に発信していくことが務めであると思っています。相談できる場、そういう環境を、率先して作っていく、地域に広げていく、こういう場があるんだよと。学校も、施設も親の会を利用してください、と伝え、親子を支えていく。今のサービスが充実しているがための親子関係の在り方も、ちょっと最近見直さなくてはいけない、と感じている時期でございます。保護者の方も働いている方が多くなり、こどもたちを時間で長く預かっていただけるところに預ける傾向があります。放課後デイで、学校や幼児期に学ばないといけないことがたくさんあると思うんですけれども（ある放デイでは）テレビを見させておいて終わりといった状況がある。（例えば）何かみんなで作るなど、子どものうちに学ばなくてはいけないこと、体験しなくてはいけないことを、親御さんが教えてあげられていないと少し感じているんですね。やはり、サービスが充実していることはとても素晴らしいことなんですが、私たちも推奨しますけど、そこで親子でなくてはできない関係性、教えられることもある。学校の 12 年間の生活の中でも、親子の愛情をきちんと伝えて育てないと、12 年間過ぎた後、学校生活が終わった後待っているのは 40 年 50 年先、親子で過ごしていかなくてはいけない。そこでお母さんが、こどもが大人になって、（仕事に）勤めるのが嫌だと言ってニートになってしまった場合とか、登校拒否になってしまった場合とか、もちろん支援を頼っていいんですけど、そこで親子の信頼関係がないと回復できない。本当に 12 年間、どういうふうに育ててきたかが、後々の 40 年、50 年の過ごし方や生活の仕方にすごく関わってくるので、その点に気づいて欲しいと考え、情報発信をしていかなくてはいけないと思っています。前の話になるんですけど、今度城北特別支援学校と南花畑特別支援学校が一緒になりますが、（最近は）親御さんの活動が積極的にされていない状況になっています。親が子どものために出来ることを学校も教えていかなくてはいけないと思いますし、開かれた学校づくりとよく言われたりもしていますけど、最近は（保護者には）閉ざされた学校になっているとも実感します。申し訳ないのですが。そういう意味で、（こども部会は）いろいろな方がいろいろな角度でこどもたちのことを考えて、親の会としても勉強なりました。ありがとうございました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

親の立場の視点からご意見いただきました。このまま順番に回していってもいいと思いますが、今確認したいこととかあれば、一つ二つ受け入れながら回していければと思うんですが。私が思ったのが、閉ざされた

学校、親の会の活動がしぼんでしまいそうという話ですが、それはどこの学校でもそうですかね。南花畑はそうですか？一般的に教育の世界でそうなっているんですか？

【古里委員】(南花畑特別支援学校コーディネーター)

やっぱりサービスが充実してきて、昔は働きたくても働けないお母さんが多くいたと思うんですね。今は働くお母さんが多くなった。(PTA 等の) 役員の方々が一部の方に偏っているところなどはあって、中々実質的にできていない部分も感じます。私自身も働いていると、PTA 活動には可能な範囲でしか関われなかったので、何も言えないんですけれども。

【竹内委員】(足立区肢体不自由児者父母の会)

PTA をずっとやっていましたけれども、東京都の考え方が PTA も、PTA ももちろん、先生方も関わって下さっているので、親だけの考えで何かをやるわけではなく、学校と一緒にやる組織なので、今は働いているお母様方が多いのも確かなのですが、私としては普通の学校よりも、特別支援学校の PTA は、お母さんが一生懸命学校との関わりを増やしていかないと、子どもたちが自分たちで意見を言えないことも多いと思われ、もちろん言えることは言っていると思いますが、そこに教員がいないと、教員ももちろん、育てるという意味でも、PTA の役割が大事な部分が特別支援学校にはあると思うので、お母さん達が活動してますと言いきってしまうぐらい、本当に忙しいことをこれ以上ここまでやるのかっていうくらいやっているのが特別支援学校の PTA だと思っています。きっと父母の会もそうですけど、外部団体という扱いをとてもはっきりしているところもあるんだと思うんですね。やっぱり組織としては学校の中は PTA 組織であって、学校の中の組織図がしっかりしているように、そこに地域の外部の団体、それを特別視してはいけない、ここの団体だから（関わっていると施設などに）入りやすいとかしてしまうと、たくさんの外部団体がある中で、利益が生じているのかなどを含め、そこはきちっと分けていきましょうというのが、とても厳しくなったのがここ数年で、それは企業とのやりとりも、とても厳しくなったと PTA をやっている時に感じましたので、お母さんたちも必要があれば、要望をしようとしてきたところですが、最近は要望することがなくなってきた。何かしてほしいという時に、団体として要望していこう、みんなでまとめて意見を出すということが若いお母さんは (サービスが) 充実しているというか、こうして欲しいという気持ちもなくなっている。しかし、これまで（お母さんたちが) 積み上げてきた (結果で今の) サービスがある。もっともっと上の代のお母さんたちが作ってくれて、今現在がある。これからもお母さんが増えていく中で、そこをどうわかってもらえるか。PTA ももちろん偏ってやる人が決まってきていますし、会の会員に入らない人もいる中でどう活動を進めていくかが課題です。なので、父母の会も在校生で会員になっている方が本当に減っている。そこで父母の会との関わりを、PTA の総会の時に父母の会の活動を説明しに行ったりとか、会員以外の方にも研修会などの情報提供をしていますが、

中々危機感もないですし、施設がもうこれ以上立ち上がらないということにも全く危機感を持っていない。その部分について、本当にこの状況でいいのか、今後どうなってしまうのか、という思いがありますね。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
サービスが充実したことで、逆に、親の主体性、自主性がまとまりにくい状況が生まれてきているということでしょうか。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）
申し訳ないんですけど、“楽したい”。親の会の活動でバザー（の参加は）面倒くさい、大変。普通の小学校に、特別支援学級に預けるにしても、送り迎えはしないといけないから、特別支援学校だとスクールバスが出るから、私は区立じゃなくて特別支援学校を選びました、という保護者なんですよ。今の保護者は。だからやっぱりこどものために何か頑張って、これからの時代にあった制度にしていくためにどう訴えっていくか、今より良くしようという気持ちがない。今は楽で、サービスも充実している。私たちは、自分たちの子どもも将来のこどももなんですよ。今のお母さんは、自分の子どもをサービスに預けて、こどもの面倒を見ることができない親が、将来のこどものことも考えられないだろうな、というのが実感です。そこでこどもたちのために“こうしよう”と言っても中々響いてくれないですし、特別支援学級にも親の会があったんですけど、やっぱり段々廃れてきてしまって、でもまた少し復活してきている。特別支援学級の方が、情報は入らない、そういう相談のところもない、サービスも充実していないっていうところで特別支援学級のお母さんたちが逆に今度見直してくれているところもあって、親の満足度が良い意味でも悪い意味でも作用することがあるなと。それは親の捉え方でもあるので、どちらもあるなと。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
それは満足なんですか？それともあきらめなんでしょうか？

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）
今のサービスに不満がないと言いますよね。特に何かしてほしいとか、何かしなくてはいけないとも思わない。役員も面倒くさいからやりたくないとか、私が南花畑で会長をやっている時からもありましたけどね。役員になったら大変だから、役員にはなりたくない、だから常置委員会で勘弁してくださいという人もザラにいました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
教員の世界でも、民間人の世界でも、役職につくと、いろんなノルマがあって、平社員が良いという方が増えているという話をよく聞きますね。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）
昔の学校は PTA の行事とかに参加してくれたり手伝ったりしてくれたんですけど、今の学校は一切タッチしないんですよね。昔は先生と一緒になって、こどもたちを喜ばせるクリスマス会であったりなんだかんだで PTA 行事に参加して下さっていたんですけど、段々学校の方も、先生がいろいろあって協力できないと言っている。PTA と先生の関係が気薄になっていると実感していま

す。

【狩野委員】（鹿浜菜の花中学校）
そこがすごく難しいところだなって思うところと、教員の意識も色々で、いわゆる世の言う働き方改革が良くもあり悪くもありで、それを負担だと感じる人も中にはいて、そのバランスをどうとるかなども難しいところかなと。先ほどの親の会も、私が支援学級に来た頃はまだ、支援学級も中学校の方もまだ関わりがあったのですが、今は親の会とどう関わっているのか私自身も知らなくて、うちの学校にも熱心な保護者もいたんですけれども、私が異動してくる数年前くらいから、別にそういうのはいいですみたいなものも実はあって、聞いてて色々痛いなと思うところはありますね。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
そうなるともう、これはこどもだけの問題ではなく、世の中、人間としての生き様、価値観みたいなところになってくるから。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）
ある意味熱意のある、向上心のあるお父さんお母さんが、やりづらい環境ってあるんですか？

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）
聞いた話ですが、親の会っていうそういうのじゃないよ、こういうのだよああいうのだよっていうふうに、今はメールや SNS などでいろいろな情報が入る状況じゃないですか。うちは特にこうしてくださいああしてくださいっていうのがわーっと来ちゃうので一旦ストップしているんですけど、うちの団体に限らず、父母の会長も言っていたんですけど、昔は、親の会に入っていないと、作業所に入れない、作業所は親の会が運営していたので、事実そうだったですけれども、今はそういうことはないじゃないですか。それをわざわざ援護係の職員に電話して話す方がいて、援護係の職員に「親の会は入らなくていいのですね」って。そこで援護係の職員が“そうではないです、大事な会なので、きちんと入っていた方がお子様のためですよ”と言ってくれなくては困るんです。学校とか施設でもそうなんですけれども、「任意なので入らなくても別にいいですよ」で終わってしまうんですよ。確かに任意なんですけれども、「ここの施設を建てたのは親の会が母体になって建てたんですよ」って。「これからのこどもたちのためにどうしていこうかということを一緒に考えていくためには、入っていた方がいいんじゃないですか、協力し合って助け合ってみてもいいんじゃないですか」というような一言がないんですよ。

【事務局】　（幼児療育係長）
あしすとのひよこのお母さんは、毎年親の会のバザーに参加させて頂いています。正直なところ、毎年、役員をされるお母さんは少々荷が重い様子はあります。それで、年長さんは就学のこともあるので、4 歳児の方で手伝ってやってくださいという話でやっています。何年か前に一度、皆さん、“都合が悪い”とか、いまだかつてなかったんですけど、誰も準備が出来なかった年があったんです。でもそれは、次の年に前の年にやってくれた人が手伝いに来てくれて、あと、親

の会の方からも手伝って頂いて、なんとか形を呈したっていう時があったんですけど、その後、それではいけないとお母さん達が思ったらしく、ここ数年はちゃんとお母さん同士が話し合って引継ぎをして参加してきている。「どうして親の会のバザーに行くのか」などを担任から説明すると、お子さんの将来のために必要だと理解できるところがあると思っている。（ひよこの対象は）年齢が低いので、本当にこれから先、親の会と歩んでいくのかうちの子はどうなのか、ちょっと親御さんの方も決心がつかないところがあり、関わりに難しいところもあるとは思います。今年辺りはお母さんたちは装飾とかを頑張っていたので、そこで、つなげていける、切れないようにうまくアプローチができるいいなと思うので、親の会もつなげていけるような声掛けをしていただけると。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）
昔は学校に親の会の説明だとか、入学式の説明会の時にできたんですね。今学校は一切そういうのが出来ない状況です。逆にそういうところで言えないので、学校の先生がきちんとこういう会なんだよ、PTAにも説明しておいてねと言っても、うまく保護者に伝わらないんですね。私達が発信できないので、親の会ってこういうところなんだよとか、入らなくいいんだよやらなくていいんだよ、ということではなくて、きちんと説明できる先生とかがいて頂けたらと思います。

【事務局】（幼児療育係長）
親の会だけでなく、PTAもそうなんですけど、入ってしまえば楽しい、学校の先生たちともパイプが出来て、横のつながりができて良い活動だと思うんですけど、だけど今時の方々は個人主義なので、つながりにくいところがどこもあるとは思うんですけど。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）
根底には委員とか役員という名のつくものにはなりたくないと思う方が多い。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）
なんか制度や仕組みなどによって、熱意がある人がそれを失ってしまうような、そういった変化というものは？

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）
一生懸命やっているお母さんに対して、ＳＮＳで“わー”と言ってくる人などもいるらしいです。それは父母の会から聞いたんですけど、そういうこともあるみたいだよと言っていたので、頑張らないでいることを、正当化するために反論しているみたいなんです。“頑張らなくてもいいのよ、別に。そんなの国や都がやってくれるんだから”などといった感じで、“何そんな熱くなってんの、あなた１人が動いたところでどうってことないのよ”そういうことを言われてしまうと、やる気があるお母さんが悪いことをしているみたいになってしまって言えなくなってしまう、今度親の会のバザー行こうよとか、とも言えないし、今度父母の会の委員会に行こうよとかも言えない、そういう雰囲気もある。保護者として、障がいの子どもを育てる立場で、人としてそれでい

いのかといろんな意味で考えさせられるところがあります。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
ひよこやうち（うめだ・あけぼの）にはお母さんがまっさらな状態でお見えになる訳で、いろいろな悩みをお持ちで、そのなかで大きなところが孤立感だと思うんですね。自分だけが世間から蚊帳の外にいるように思い込んでしまっているような状態の苦しみや悲しみがあると思うんです。これまでの自分の経験の中で、いや、そうではないんだよ、あなた一人ではない、同じように悩んでいる方はいっぱいいるから仲間を作ってください、とうちに来る親御さんには折に触れて必ず申し上げています。そういうことを何処かで誰かが言わないと、大きな時代の流れに流されて、孤立感で行ってしまう気がします。これについては、次年度以降もテーマにしていただけたらと思います。次に学校について、ご意見など伺いたいと思います。

【林田委員】（城北特別支援学校コーディネーター）
2年間お世話になりました。ありがとうございました。いろんな専門家の先生からのお話を伺って、こどもを取り巻く状況など見えてきたところです。今思っているところとしては、情報はたくさん持っているんだけれども、情報を持っているところに差があると感じました。情報が無い人は、どこにいったら情報がとれるとか、あるいは困っていないとか、知らない人は知らない、知っている人はすごく知っている、活用している、一方で知らない人は知らないところが見えてきています。自分の学校の中を見てみても、サービスに対してそうです。知らない人は知らない、それが無くなるように取り組んでいます。それでも外部に出た時に、本当に知らないんだなっていうのを感じます。私たちにつなげてくれているところは情報提供できるんですけど、何も知らないで埋もれている人もいっぱいいるんだなとか、学校も知っているところはよく知っているけれども、知らないところは知らない、困っていないでしょそもそもという課題がいっぱいあると、この立場（コーディネータ）にいると見えてくるところがあります。そういう方が地域にいっぱいいるんだなと。その中で氾濫している情報を、必要な方に上手に届けたりとか、誰に聞けばそういうことが分かるのかとか、そういう仕組みが必要なのかなと、外部支援をしている立場から思っています。あってあたりまえという点では、例えば医療的ケアのお子さんが、NICUから退院するにあたり、お家で対応できるように訪問看護師やら何やら全て手配してくれて、家にいると全てやってきてくれて、そのうち通所支援の利用なども手配し、そういった生活をしていて、さあ就学となった時に、“もうそれができないんですか”ということになり、それで就学相談をしている間に、親が本来出来ること、例えばだっこがきちんと出来ないお母さんがいたりなどの状況があります。あってあたりまえ、あっていいんですけれども、矛盾を感じています。先の見通しも同じで、なかなか見通せないところがあるなと思っております。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

学校は福祉とは違った文化歴史を持った環境ですので、食い違いもあります。そのあたり、お互いにわかりあえてないところがあると思います。こういった場でそういう情報を共有していく中で、その落差が縮まっていくような気もしますし、それは後々の文字化してパンフレット作って読んでくださいというだけではなくて、具体的な場面を通してわかりあっていくのかなとも思います。いろいろな立場の人が、こういう場に来ていただけると共通理解も増し、保護者も安心して子育てできる地域になっていくのかなと思いますね。

【内山委員】(北療育医療センター城北分園医療担当課長代理)

こども部会が大きく変わって、乳幼児施設から、小学校、中学校まで、福祉施設、保育機関が集まって、どういう協議会になるかイメージがつかなくて、共通のテーマはこどもだけど、年齢も違っていて、どういうところで協議していくのかという混沌とした中で参加させて頂いたんですけど、実際にこどもたちが育つ、これだけの機関が集まって協議をする場って、今までなかったと思います。子どもが抱えている問題というのを、一堂に集まって、連携をとることの大事さを感じました。特に先ほどの保護者の“楽したい”、という状況はまさに、どこでも抱えていると思います。幼稚園、保育園でも、こどもと向き合いえない親御さんがサービスの充実と比例して現れている感じがします。医療ケア支援も、自宅が動く病室というか、NICU からそのまま家に水平移動している感じもある中で、私たちが頼りにしているのが親の会なんですね。親の会は、こどもたちは自分で育てなくてはダメなんだよ、と。先輩お母さんが会を通してそうした話をしてくれることが、親同士のつながり、子育てのノウハウなどが得られるということで、父母の会、親の会の力がとっても大きいと感じています。城北分園では、父母の会などに来てもらい、先輩保護者として話をしてもらい、そこでの発言で会につながる方も最近少しずつ出てきている気がします。親同士の横のつながり、教育と福祉が連携しながらやっていかないと、サービスに親が振り回されてしまうなと、この 2 年間で感じました。これからも連携を取りながらやっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

【上原委員】(あやせ保育園)

前回は欠席しまして、申し訳ありません。うちの職員の報告に質問やアドバイスをたくさん頂いて、とても勉強になりました。ありがとうございました。区立園の園長として、前任が 1 年、私が今年 1 年間だけの参加でしたが、このような機会に出させて頂くことで、皆様からの生の意見を聞けたことは大変有意義でした。区立保育園では、今長いお子さんで 1 日 12 時間過ごすお子さんがたくさんいらっしゃいます。そうすると、家庭では夕飯を食べて、寝て起きてまた保育園にというサイクルの生活が続くんですけど、よく保護者会でお話をするのは、子育ての主体はお父さんお母さんであって、私達保育園は応援者であって支援者であって相談者である、というお話をさせて頂くことが多いです。初めてのお子さんのお母さんは答えをすぐ欲しがる方がとても多くて、お母さんはどう思いますかと切り返してい

かないと、自分で考えて、自分のこどもをこういうふうに育てていきたいんだっていうふうに思えないお母さんお父さんが年々増えてきていると感じます。そこは、使えるサービスを全部入れていくことで、保護者の意欲が下がるという話もありましたが、そうならないように発信していく責任も保育園にはあると思います。例えば、上の子の小学校の運動会があるので、土曜日いつも来ているお子さんじゃないんですけど、下の子を預かってほしいという相談があったりします。そうした時は、「せっかくの機会なので、下の子も一緒に上の子の運動会を見てきてはいかがですか？」などと話をしています。わりと公立保育園は預かってほしいと言われたら断れないという空気があるんですけれども、やはりそこは安易に、親子の時間を奪うことはしたくないと思い、ご相談は受けるけれども、一緒にいかがですか、というように、お返しするようにしています。父母の会もない園の方が多くなってきていて、お母さん同士が夏祭りとかに参加して、自分のお母さんと友達のお母さんが一緒に何かをやっている姿をこどもに見せるのはとっても大事な学びになると思っていますが、そういう機会も減っているというところでは、発信していく責任を感じています。今後ともよろしくお願い致します。

【狩野委員】（鹿浜菜の花中学校）

２年間を振り返って、まずは公立の特別支援学級では、通常の学級に進級する生徒が多い中で、自分がどう見られているかってほどではないんですけど、支援学級の立場が中々分からないこともあるので、こういった場で、いろいろな立場の方から話を聞いて、そういうふうに見られているんだなと思い、勉強になりました。やっぱり学校の中だけにいるとそれは分からなくて、自分たちとしては一生懸命やっていると思っていても、まだまだ足りないところとか、逆にやり方が間違っている訳ではないですけど、何かもっとこう違うやり方があるんじゃないかとか、こういう場に出させてもらって、すごくそこは新鮮でした。学校は閉鎖的ではないと思っていますが、関わる機関はありますけど、でも最近を振り返ってみて、いろいろな方からお話を聞くと、まわりとの関わりが薄くなっているかなと感じます。担任もどう関わっていいのかわからない、どこと関わればいいのかわからないという現状があると思います。特別支援学級に関しては、やはりどうしても異動の関係で、必ずしも支援学級を回っている先生ではなくて、通常学級から異動してくる方、本来は通常学級に行きたかったんだけど、何かの異動の兼ね合いで支援学級に来ましたという方、その方たちが決して手を抜いて仕事をしている訳ではないんですけど、元のところに戻りたりと思う先生たちもいますし、または教員になりたてで、教員という立場がどういうものなのかが分からなくて、わからないまま特別支援学級に着任すると、そこで支援を必要とするこどもたちにどう関わっていいのかわからない、という方も多くいます。その中で、どういろいろな専門の方と関わっていくか、そういうところが薄くなっていると感じました。今後もこういったところ出させていただき、どうつなげていくが課題になるかと思いました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

1つお伺いしたのですが、特別支援教育の世界で、支援教室は小学校は全校、中学校は来年度全校に設置される。その動きと先生たちとの学級との動きとで、何か変化などはありますでしょうか。

【狩野委員】（鹿浜菜の花中学校）

やはり支援教室ができたことで、特別支援教育へのハードルが下がったと感じています。通常学級からいきなり特別支援学級となると、就学支援という意味でハードルが高くなる、保護者の考え方にもよるのですが、支援教室があると、そこに通っているお子さんを見たりする中で、自身のお子さんの課題を保護者が見つめ直し、通常学級で学習や集団との関りについていくのが難しいと感じている方が増えていると感じています。学校によっては形としては作ってはいるが、受け入れる体制として、どう支援していくか、その中でまだまだ整っていないところもあり、保護者の支援教室の理解も、個々の発達的課題への対応ではなく、勉強の補習をしてくれる場と捉えている方もいるんですよね。そういった保護者への啓発もこれからしていかなくてはいけないと思っていますし、学校としてもどう教員のスキルを上げていくかというところも学校現場の課題としてあるなと思います。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

通常学級、特別支援学級、特別支援学校と3段階あって、通常学級と支援学級の間に支援教室が入った訳ですよね。支援教室の子どもたちの転学はしやすくなっていますか。

【狩野委員】（鹿浜菜の花中学校）

というふうに私は思っております。一度そこで支援を受けて、丁寧に見てもらうことで、お子さんが生き生きと頑張れるようになったという時に、お子さんにとって支援が必要なのかなと感じた時、知的障がいではないかもしれないが、支援が必要なのかなという時に、制度的違いはあるが、のびのびとした支援を保護者がみることで、支援学級できめ細かくやってもらおうと感じる方が以前よりは増えたと感じております。

【渡辺直子委員】（一般社団法人ねっとワーキング）

2年間ありがとうございました。この会議に出席し、それぞれの機関の抱えている問題やどういうことを考えているのかなどを知ることができ、とても勉強になりました。

先日ねっとワーキングの方で、こども支援センターげんきで実施した、支援学校と支援学級と支援教室の先生方の研修にペアレントメンターで参加させていただいたんですけど、先生方10人くらいのグループにメンターが2人入って、グループワークを行いました。グループにより話の進め方は違ったのですが、私の入ったグループでは自己紹介をしてから、メンターの体験談を話し、その後先生から保護者のような気持ちでご質問を受け、それについてみんなで協議する形で進めてきたんですけど、支援教室の先生方が多かったんですね。その中で、お子さんの家庭での様子と学校での実態が違っていて、それを先生が保護者にどう伝えていいか困っていたという話があった。実態を伝えると、（親が）ショックを受ける、拒否されるんじゃないかとか、ご家庭で保護者がそれぞれ悩みを抱えているが、

どう関係者につなぐか、またはつないでいいのか、さらには保護者会をしたいがどうすすめたらいいかなど、私たちなりにお気持ちをお話させて頂きました。先生方の思いもよくわかりましたし、保護者の気持ちとすれ違っている部分もあるんですけど、そういう相互理解というところで、少し理解が進んだかなと思いました。

また11月に年6回竹ノ塚保健センターで行っているミッキーの会の卒業生、幼稚園に行ったり保育園に行ったり療育機関に繋がったお母さんたちがミッキーの会を卒業して、悩みを話しに来る会というのにメンターとして参加しているんですけど、たまたま卒業生がいない回に、保健センターで1歳半健診で指摘された保護者の悩みを聞く機会があったんですね。やはり、療育機関に繋がる前の悩みを相談することが中々ないというお話もここで出たと思うんですけど、そういった隙間にメンターが入って、話を聞く会を設けてもらって、すごくありがたいなと思ったし、げんきもあしすともいっぱいだそうなので、うまい具合に私たちを活用して頂いて、療育の待ち時間のとても辛い時に、親御さんの気持ちを聞けたらなと思います。私たちの機関は立ち上がってまだ3年目で、何かを大きく変えていく専門家の機関ではないんですけれども、少しでも保護者の力になりたいですし、専門家の方々との橋渡しみたいな形での活動もしておりますので、連携を取っていって、今後とも皆さんと協力していってこどもの環境、保護者の環境を良くしていけたらなと思いました。今年度もお世話になりました。ありがとうございました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

支援教室との学びの場があったとの話がありましたが、参加されている支援教室の先生の年代はどうでしたか。

【渡辺直子委員】（一般社団法人ねっとワーキング）

様々ですね。若い方から、年配の方までいらっしゃいました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

私の勝手な印象ですが、支援教室は退職教員の再雇用の方が多い場と感じておりましたが。

【事務局】（療育支援担当係長）

支援教室の教員は、現役、正規の方です。

【渡辺直子委員】（一般社団法人ねっとワーキング）

私たちと同じ子育て世代の方も多くいましたし、若い先生が、私たちみたいな若い教師が、親御さんの話をどう聞いたらよいかわかりませんみたいな、そんなご質問もあったりしました。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）

2年間ありがとうございました。私自身こうした場に参加するのは初めてでしたが、各分野の方々とお話をする機会は、非常に勉強になったというのが一番です。放課後等デイサービスの立場で申し上げると、具体的に質の問題と、各領域との交流が少ないと痛感しました。そういう意味では当然勉強会とかもしているのですが、まだまだ本当に追いついていないというか、産声を

上げた制度で、サービスとして何を目指しているか、存在意義自体が、もしかしたら親御さんにマイナスに作用しているところもあるのか、デイ自体がどうあるべきかをそれぞれが具体的につかみきれていないと非常に感じました。区にも決められていないところ、やっているところとしては色々あっていいと思うが、誰のためのデイなのか、などと自問自答した 2 年間でした。最近のニュースを見てみると、加藤先生も言ってましたけど、例えば忘年会に出たくない若者もたくさんいて、それも良いんじゃないかという話、集団から個に移り変わる時代で、先ほどの PTA の話と関係あるかもしれないんですけど、こどもたちのためにやらないといけないよねという話ではなくて、私の個として振舞って何が悪いと、それに入る義務があるの、ということになっていて、非常に良い部分と悪い部分が一緒に大きくなってしまうのがあるんだろうなと、現場はそれぞれに悩んでいるところがあるんだなと感じております。最後になるのですが、放課後デイとして、親の会との交流は聞いたことがないですし、実際に交流の場がないんですね。そういう意味では、親の会や父母の会がいったい何をしているのか、しっかり言えるデイの職員がどれくらいいるのか、僕でさえしっかり言えないんじゃないかというところがありますので、個人的にはそういった交流をしていった方がいいのかな、それはいろんな面でサービスや質の向上といった面を求められるのであれば、そこがないんじゃないかな。デイの中で、利用者さんの親の会、茶話会みたいなものはあるんですけど、実際にデイが親の会との交流があるのかというと無いと思うので、交流の場があるといいなと思っております。なので、次の（部会の）方々にデイの悩みなど、2 年後また変わっていくかもしれませんが、出してもらうと質の向上になるのではと思っています。ありがとうございました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

放デイは発達支援の目的でスタートしているのですが、実態がそうでないところを国が修正しきれていない現状があります。方針を変えるのか、元に戻すのか、などが必要と思います。昨年の 11 月 27 日の直近の厚労省のデータですけど、例えば放デイの利用者数が約 23 万人、事業所数が約 1 万 4 千。それに対して従来の児童発達支援は約 10 万 5 千の利用児数、事業所数が約 6600。完全に放デイが数的にも箇所数的にも倍以上、規模は小さいんですけど、巨大な事業になっちゃっているんですね。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）

（放デイは）ただの送迎屋と思うときもありますね。子どもが 5 分 10 分しかいない時もあります。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

親の就労支援と発達支援がごっちゃになってしまっている。

【事務局】（幼児療育係長）

元々、放課後の余暇活動というような当初そんな話でしたが、やっぱりお仕事されているから預からないといけないという議論にネットワークの方でもすごくなるじゃ

ないですか。お仕事されている保護者のために、10 人を超えても預からないといけないとか、感染症にかかっていても預からないといけないとかという議論になってしまうというところが大きいですよね。

【松永委員】(きたせんじゅステップ代表取締役)

使い勝手が広がり、選べる状況にまでなっているのはいいと思うが、一方で想定していない利用も出てきて、今は辞めていくデイもあって、職員にもいろいろな仕事や立場やキャリアがあって、さすがに仕事辞めてという話はできないので、1 時間かけて迎えに行って 1 時間かけてこちらに来て 1 時間かけて自宅に帰って、もうその地獄ですよ、多分。2 時間もずっと車の中にいて、それが支援と呼べるのか、ただの預かりであると思う。いろいろなパターンがあって一概に言えないんですけども、デイとは何かを考えないといけないと思う。

【加藤部会長】(うめだあけぼの学園)

国の研究事業で、三菱総研で今年度中にデータがそろう予定なんですけど、そのデータに基づき手直しがされると思います。もう一つは、インクルージョンの視点で学童クラブと放デイを一体化すべきかという意見も出ていますが。

【松永委員】(きたせんじゅステップ代表取締役)

我々が(学童の)教室にいけば良いという話も、当然あるんですけど。

【事務局】(幼児療育係長)

元々学童が先にあって、放デイが出来る前は学童に一定数の支援の必要なお子さんも入っていたのは事実なんですね。ただ、足立区に限って言えば、お子さんが自分で学童に行って帰ってこないといけないという部分では、送迎の部分まではカバーしきれないので、放デイの方に一気に流れたという感じはあります。10 年前は学童の中に一定の障がいのあるお子さん、例えば城北特別支援学校からも親の会の車に乗って、送迎で来ていたりとかしていたんですよ。それが一切無くなってるというのが現状ではあって、ただ確かに加藤先生が仰るように、本当は数時間だけでも通常級のお子さんと触れ合える機会もあったのは、お互いにとってとてもよかったのではないかと思います。車イスに乗って食事もきちんと自分で取れないお子さんと同じところで過ごす経験は、通常の学級にいると中々できないことだったけど、その通常学級のお子さんの思いやりの気持ちとか、その子に対する関わりとか対応というのは素晴らしく、どんどんできていくような状況もあったので、ただ保護者の方とかいろいろなこととかを考えると、放デイという選択をせざるを得ない状況ではあったのかなと思いますね。

【加藤部会長】(うめだあけぼの学園)

国策的にも大きなテーマとなっていますので、近々それもデータとして下りてくると思いますので、ぜひ注目していきたいと思います。

【渡邊義也委員】(興野保育園園長)

私は民間保育園連合会より参加しました。2 年間いろいろ勉強させていただき、また近

隣の施設との交流が増えてよかったです。ただ、私個人というよりも、連合会の立場としては、皆様の話を伺っていて、保育園の役割を改めて考えさせられて、保育園が地域のお母さんたちに窓口としてできることがあったと感じましたが、連合会に返して共有していかないといけないところが課題だなと感じております。今保育園自体は、待機児解消アクションということで、年々どんどん増えておりますので、民間保育園も今度の4月で129園になります。10年ちょっと前までは20園30園だったのが、3倍近くに膨れ上がってきているところです。そこで、足立区の組織や窓口がわからない、相談機関も知らない、システムもわからない保育園も増えてきている中で、私としてはそこで役に立てなかったのが申し訳なかったという気持ちでいます。ただ、次年度以降ももし連合会の方で選ばれれば参加しますし、私個人としてはせっかくいろんなつながりができてきたので、立候補して次もやろうかなと考えているところです。皆さんの課題を聞いて何か出来ることはないかなと考えて過ごしてきたんですが、それは課題のところでお伝えしたいと思います。皆さん本当にありがとうございました。

【寺山委員】（足立つくし幼稚園園長）

足立区私立幼稚園協会から参加し、たくさん勉強させていただき、自分としてためになりました。ありがとうございました。なんですが、やはり、それを協会に持ち帰り、私立幼稚園にどう広げていくかというところが私自身よく分からなくて、少なくとも個人としては、少しずつ皆様とつながりが出来始めたと思っておりますので、これを少しずつでも続けていって、こどもの自立につながるネットワークづくりとして協力、勉強させて頂きたいと思います。少しずつですが、動きも出てきていると思うので、これからもご指導頂きたいと思います。よろしくお願い致します。先ほどの保護者の意識の話がありましたが、私は幼稚園協会でPTA連合会の担当をしておりまして、各幼稚園のPTAや保護者会をまとめるようになっているんですけど、やはり幼稚園によっては保護者会がないところも増えてきていますし、Pの意識が低い状況があります。でも行政を動かすためにはTが言ってもあまり役に立たなくて、また協会が言ってるって嫌がられてしまって、Pの連合会の会長が話をすると全然違うんですよね。私たち幼稚園の無償化などもありましたが、それを動かしているのはPTAという組織であることをもっと知ってもらいたい。あと、皆さんのお話を聞いて、支援があり過ぎるというか、私たちが教育サービスをしすぎちゃうのもどうなのかなと思っていて、丸投げにしてくる、親は預けて働く、という考えが国策的にあるので、いやいやこどもたちは保護者の力がすごく必要、保護者と園と地域で育てていくもの、というのをどう伝えていくのかを考えました。これからの幼稚園の役割として、保護者の意識にもっと関わっていくことが必要かなと思いました。ありがとうございました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

今度は、最終的にこの2年間終えて、新しい2年間に向けて何を申し送りするか、議論出来ていないことでこれは大事だと思っている事とか消化不良になっていること

など、ぜひこの問題は優先順位を上げて検討して欲しいことを 1 つだけあげていただきたいと思います。

【寺山委員】（足立つくし幼稚園園長）
こういう会を行っているという周知、啓発が頭に思い浮かびました。様々な活動や、親の意識などの話、交流活動、協議会があって、みんな集まってこうやって連携しているところをうまくひろげられるといいのかなと。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
公には、区のホームページ（以下、HP）公開されていますよね。

【事務局】（幼児療育係長）
はい。ただ、皆さん中々そこに見に行こうと思わないと見に来ていただけないとは思うんですけど。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
こどものことを考える場があって、こんな人たちが集まっていてこんな話をしている、公開されている中身をもう少し関係者が目に触れられるようなアクセスのしやすさを考える必要があるかもしれないですね。

【事務局】（幼児療育係長）
足立区も HP をちょっとずつ改訂を進めているところではあって、見やすい HP というのを目指して作成している途中です。この件については、こども部会だけでなく、自立支援協議会全体がもっと広がるように伝えていきたいと思います。

【渡邊義也委員】（興野保育園園長）
今の話とちょっと繋がるかもしれないんですけど、皆さんそれぞれネットワークを持っていると思うんですけど、私はここに来て、松永さん達のグループのネットワークを知り、お付き合いができるようになったんですけど、足立区全体で色々なネットワークグループがあると思うんですね。そこが全然見えていない、つながっていない、というようなネットワーキング同士の関係性が見えないところがあると思っていて、ここで問題が起こった時にはどこに行けばよいかとか、じゃあ保育園連合会は何をやればいいのかっていうところを、連合会の中で相談するとか、そういうシステムがもうちょっとあってもいいのかなと。せっかくこういう場があるので、もう少し有効に活用できるような形作りができないかなと感じています。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
保育園連合会、幼稚園連合会、親組織に返すものが無いと話していましたけど、具体的なアクションにつなげた話題を出さない限り、私たちが 2 年間話し合ってきたことを親組織に報告するのは中々難しいだろうなと思います。なので、もう一歩具体的に踏み込んだ議論をしていけば、じゃあ自分たちが何をやっているのかという話になってくると思います。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）
まさに事業者連携、交流、一本化ではないんですけれども、わかりやすい、一本化が必要なんじゃないかなと。こういう場が発展していくようなもので、子育てイベントみ

たいなものであったり、発信する場であったり、というような形で、各領域の人達が交流をもてるような場を作っていただければ、今後私が委員でなくなっても、非常にありがたいですし、情報にアクセスしやすくて良いのかなと思いました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
他の協議会の人たちにこども部会の話をすると、それうちでもそういう話をしているから、一緒のフィールドで議論したい、情報交換したいと言われたことがあります。そういうところができていくと、もっと重層的にこれらの課題が具体性を帯びていくんじゃないかと思いますけどね。

【事務局】（地域生活支援担当係長）
今年度権利擁護部会と精神医療部会が合同で実際に実施しております。いずれの部会でも課題であがった住宅問題、特に長期で入院されている方、また入所されている方々がお家を探せないということで、住宅課の職員を呼んでですね、一緒にやるということが試みられています。他にも相談支援など、私たち関わることも多いと思うので、そういったところは、また次年度以降ご提案頂けるとありがたいです。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
そこらへんは柔軟に話題、テーマ、希望を聞いて、交流できるといいですよね。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）
そういった交流の場がないんですよ。それぞれに電話をしないと。

【事務局】（幼児療育係長）
松永さんとネットワークの代表に出ていたのに、ネットワークの発信をしていないという反省を今思っていて、それをしないと次につながらないという反省ですよね。すみません。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
気づいた人には、動く責任がある。それぐらいのつもりでやらないといけないですよね。

【渡辺直子委員】（一般社団法人ねっとワーキング）
今広報とか、子育て世代に向けての冊子とかで、区の方でも発達に困り感がある場合にどこに相談すればいいのかという啓発をしていただいているんですけど、困ったときにすぐ手にとって分かるように周知を進めて頂けたら、どこに電話したらいいんだろうという迷いがなくなるような気がするので、さらに進めていけたらいいかなと思いました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
忘れないうちに皆さんにお伝えしたいのですが、足立区子ども政策課が作成した「あだち子育てガイドブック」の冊子の中に社会資源を記載した地図が入っているが、足立区全域の資源が掲載されているが、発達支援関係が全然載っていない。どこに何があるかという部分はここには書いてないんですよ。冊子の後ろの方に、相談というところに一部載っているんですけど、この地図の中では完全に無視されている。でも、逆に

そこなんですよ。我々関係者がそこにコミットできてないから、こういうことが平気で行われているんですよ。誰も気づいていない。制度的差別、実態がネグレクトされている。そういう視点をもっている方を入れるべきだと思います。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）
交通事故で、車で突っ込んじゃって幼稚園生が亡くなっちゃったっていうところで、足立区も危ないところがないか、調査入りましたけど、児童発達支援事業所は無視されましたからね。何が違うんだと。文句言って直してもらったんですよ。最初は無視されてたんですよ。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
給食費の問題も江連さんが頑張ってくれているから何とかなりそうだけど。

【事務局】（幼児療育係長）
そこは今ちょっと動きがありまして、まだ何とも言えないところがあるんですが、地図の件については担当課の方にも連絡して、協議会の方でこういう意見があったということは必ずお伝えします。昔こどものネットワークの方で、足立区の事業所の地図を作っていたことがあるんです。ただ、足立区はもう出来過ぎちゃって入らないという、地図に書ききれなかったということが当時あったので、今は作成はしてないのですが、公のものですよね。担当課の方に伝えておきます。

【狩野委員】（鹿浜菜の花中学校）
私も皆さんと同じで、こういったところでのつながり、具体的に動いてくると、いろいろな支援の仕方があると思うので、学校サイドとして何か保護者の困り感があった時に、どう紹介するのかということも１つありますし、逆に中々動いてくれない保護者には、動いて、こうするといいですよというアドバイスなんかも、こういった横のつながりがあると、保護者にも伝えやすいのかなと。横のつながりが今以上に強くなると、保護者またはその生徒に対しての支援というのがより良くなるのかなと思います。

【上原委員】（あやせ保育園）
連携が大事ということをとても実感していて、前回の発表でも、いろいろな支援がされているけれども、果たしてその親子にとって、将来的にどうなるのか、その支援がいつ切られて、継続するのはどの支援なのかなどをコーディネートする部署がはっきりしていないと、それぞれがそれぞれをやっているんだけれども、本当の意味での自立支援につながらないんじゃないかということを学ばせていただきました。具体的な自立に向けた支援を取りまとめる方策が見出せるといいなと感じています。

【内山委員】（北療育医療センター城北分園医療担当課長代理）
協議会の中で、共通した親像などが浮かび上がってきたのは大きな成果かと思います。これを当事者の親にどうフィードバックしていくのか、子育てはやり直しがきかないので、後であーすればよかった、こうすればよかったということがないように、今

の親に協議会で検討してきたことをどう伝え、どう気づきの機会を伝えてあげられるか、こども部会としてどう発信できるか。議事録は相当興味のある人しか見ないと思うので、それぞれの場で保護者会や親の会などを通して、それぞれの場では絶対やっているとは思うんですけど、区のこども全体のことを考えた場からも、何か発信できるといいと思います。勿体無い気がします。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
アドバルーンを上げないといけないですよね。自立支援協議会の存在そのものがどれだけ認知されているのかという部分もありますね。さらにそこの枝葉のこども部会というところまでたどり着けるのかっていうところですよね。それぞれの立場からの発言を含めた、シンポジウムみたいなものを行うとか、そこから存在を知ってもらうっていうのも１つの方法だと思いますね。

【古里委員】（南花畑特別支援学校コーディネーター）
この会に出席している方の担当者、連絡先の一覧表があるといいかもしれない。例えば、特別支援学校のことを知りたければ、この人に電話しましょうみたいなもの、私も自分の学校のいろいろな教員に伝えるのって難しくて、紙ベースで貼物とかがあると、こんなところと連携しているんですよ、困った時には見てくださいね、こういう所にも電話できるし、何かあったら私に言ってね、例えば、学校のことなら南花畑に電話しましょうとか、簡単な一覧表があるだけでも全然違うのかなって思いました。

【林田委員】（城北特別支援学校コーディネーター）
同じ意見で、これだけ専門機関が集まって、何か相談すれば返ってくる。これだけ相談先があり、区の手続きとか援護係に行く前にでも、こういうところで相談できるネットワークを、保護者にも関係者にもわかるようなリストを作るといいのかなと。例えば、支援学校のことは、学校の番号だけではなくて、コーディネーターの名前を書いておくとか、この機関のこの人に聞けばはっきりわかるといいなと思いました。

【竹内委員】（足立区肢体不自由児者父母の会）
みなさんそれぞれ役目という言葉を仰られていて、うちの会の役目は“こう”というのが、この会議の中で連携をとる基になるような気がします。“こうです”とアピールするのも、この会に出て本当に足りなかったなと思っていて、もうちょっと父母の会としてこういう活動をして、何かあった時に皆さんにこういう声掛けをしてくださいということを、逆に皆さんからも伺わせて頂きたいというのもあります。困った時に課題の中で、こんなふうに連携が取れますよ、という時間を取らせて頂けると、委員の皆さんそれぞれに、1 つネットワークを作るための基ができるというか。私自身もあまり皆さんのところを調べられてないですし、うちも検索で調べられる会ではないので、そういうところでは、この時間に連携をとるための基を作っていけるといいなと思いました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

それぞれの関係機関、ネットワークの図表を提出して頂いたんですけれども、それを吟味できず終わってしまっていますので、実効性を高めるという意味で、今仰っていただいたことを次の課題に挙げられたらいいなと思います。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）

こどもの自立につながるネットワークということで、どうフィードバックして、伝える人に伝えていくのかというところは本当に大きな課題だと思います。親の立場として、皆様よりは、親のことを言いやすいので、言わせていただくと、身の回りの自立はサービスを使っていいと思うんです。手伝って何か成果が出るとか、達成感が出るとか目に見えるものに対してのお手伝いとか、サービスはとてもありがたく思います。ただ、親として今一番足りないのは、心の成長と、心の自立が今のこどもたちには足りないと思っています。やはりそこには、親の関わりが背景にあると思うんですけど、先日何気なく見ていたテレビで、お母さんがスマホを見ながら、子どもが「これなあに」りんごを持っていて、スマホを見ながら「りんごね」と言う、次のお母さんはそのりんごを見て、どうしたかというと、「りんごだね」とまず名前を教えて、「これ食べてみてごらん」と言って、「おいしいね」「これ何色？赤だよね」そこで共感していろんな感情で、そのりんごという 1 つの物を共感してどういうものかということを教えているんですよね。だから、今のお母さんってこういうところが足りないんだと。何気なく見てたテレビなんですけど、ずっしりきてしまって。こういう子育てって大事なんだなと。こういうことを発信していかないとなと実感したので、やっぱり心に響くものを今の親に届けないと、親子関係や環境も崩壊しかねないと思うので、ネットワークを強くしていきたいと思いました。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

残された課題がたくさんあり、1 つ 1 つ重要なことかと思います。改めて、次年度の委員の皆様にこの辺を踏まえて議論を進めていただきたいとご期待申し上げたいと思います。

私なりに課題として思っていたのが、3 番から 10 番まであるのですが、連携について考えるということについてですが、これは十分煮詰まっていない状況にあると思います。また、子育て支援マップのような、関係する機関の窓口や担当者の名前が載っている具体的なマップみたいなものができるといいかなと思ったところです。4 番目としては、この地域でのこどもの実態が明確になっていない、エビデンス、データベースがおさえられていない。色々なこどもがいて、いろんな課題を抱えていて、いろんな環境の中で、育ちにくさ、育てにくさがあるだろうに、もう少し足立区という明確な、68 万の人口の中で、どういう実態におかれているのか、例えば、ひきこもりの方は何人いるのか、待機児は何人いるのか、リスキーな子はどこでどんな生活をしているのか、などの基本的データがないので、いまひとつ話が具体化しにくいと思いました。それから育てにくさに関わる、官民の関係者も網羅できていない。児相、保健師など、相談関係者がいてもいいと思いますし、医療関係者もいてもいいと思いますし、関係者がもう少

し網羅されて、漏れのないところで行う必要があると思います。それがないと議論が深まらない、行動としてつなげにくい。資源の乱立、資源の数は23区内No1だと思っているのですが、そこが非連続であるがために、こどもと家族に焦点を当てたマネジメントが機能していない、漏れているこどもたちがたくさんいる気がします。議論の積み上げができていない、問題意識の確認と共有で終わっていて、断片的にはしているけれども、そこから先の、テーマを絞りながら、深堀りするデータをもちながら議論することができないと行動につながらないと思います。また、委員の出席率、顔触れが安定しない。今日もそうですが、年4、5回と限られた回数で議論のつながりが難しい。一度でも欠席すると話がつながっていかない訳ですよね。連続性を持たせて議論を積み上げようとすればするほど、1回の欠席が大きな欠落感をもってしまう難しさがある。あとは、我々自身が、この共通のミッションに対し、どこまで我がこととして取組めているかの難しさですね。これを、持続的、継続的に意識し続けることは中々難しい課題です。ここをどうしていくかということが私の自己反省でもあります。あとは、ミッションとパッション、ミッションは明確に設定しないと、パッション、それなりの覚悟と言いますか、テンションを上げたところで確保することが必要かと思いました。

内容をまとめていただき、次の新たなこども部会につなげていただけたらと思います。お疲れ様でした。ありがとうございました。

３　事務連絡

【事務局】（幼児療育係長）

議論は尽きませんが、お時間となりました。昨年度より、委員をお願いし、部会の方に参加していただいたこと、大変感謝しております。部会の議事録につきましては、今回も委員の皆様にご確認して頂いた後、区のホームページの方に掲載して参ります。中々見て頂かないと見られないホームページではございますが、こども部会の記録も載っておりますし、他の部会の物も載っておりますので、ぜひご覧になってください。私からも皆様のご意見を聞かせていただく中で、勉強になった2年間でした。今回、連携というテーマがはっきりと見えてきたこと、今後どう進めていくかということの道筋が見えてきたかと思います。この2年間の成果を、次年度以降に必ず引き継がせて頂きます。ご意見頂いたことも踏まえて、部会の在り方等も考えながら、この2年間の成果をさらなる足立区のこどもたちのために活かしていけたらと思います。2年間、お忙しい中ご出席頂きましてありがとうございました。